

令和2年(2020)度 第30回「中村元東方学術賞」

第30回中村元東方学術賞審査委員会報告

この度の選考に際しましては、中村元東方学術賞審査委員会で慎重な審議の結果、第30回の中村元東方学術賞を渡辺章悟東洋大学教授に授与することに決定致しました。授賞理由は以下の通りであります。

授賞理由

渡辺章悟博士は1953(昭和28)年のお生まれで、1972年(昭和47)4月法政大学文学部哲学科に進学、三論研究の泰斗であった故泰本融先生に師事し、空思想を中心とする東洋哲学に興味をひかれ、仏教学を志ざされました。泰本先生の薦めによって1980年4月東洋大学大学院文学研究科仏教学専攻課程に進まれ、故菅沼晃教授のもとでNāgārjuna(龍樹)から、さらに「般若経」の研究を始められました。その後渡辺博士は1985年に財団法人東方研究会研究員となり、1992年には理事長の中村元先生に推薦され、インド・デリー大学・St. Stephan's College 哲学科客員研究員として、サンガセーナ・シン(Sanghasena Singh)教授のもとで『文殊般若経』を講読されました。帰国後東洋大学講師、助教授、教授を歴任され、2020年同大学東洋学研究所長として現在活躍中であります。

渡辺氏が「般若経」研究を志した当時は、『八千頌般若』を除いて、まだサンスクリットのテキストも刊行されておらず、漢訳による研究がもっぱらでした。そのため、未刊行の『二万五千頌般若』サンスクリット写本の研究を志し、大学院を終了後、東大写本やケンブリッジ写本などをもとに、第六章、第七章の校訂テキスト(『東洋大学大学院紀要』第25, 27, 29集)を公刊されました。

その後、モスクワ大学教授だった故ボンガード・レヴィン博士と共同で、ロシア科学アカデミー所蔵の東トルキスタン出土『二万五千頌般若』写本断片の同定と校訂(*Journal of American Oriental Society* 114-3)を皮切りに、戒波羅蜜のサンスクリット写本(*Wiener Zeitschrift für die Kunde Südasiens* 41)、ペテロフスキー・コレクションの『二万五千頌般若』サンスクリット断片(『印仏研究』41-2)、さらに江島恵教博士に委託された『十万頌般若』の断片(『印仏研究』40-1)など多くのサンスクリット写本の同定とその研究を矢継早に公刊されました。

その後集中的に取り組まれたノルウェーのスコイエン・コレクションに含まれるガンダーラ写本(*Vajracchedikā* 金剛般若経)の研究は、ポール・ハ

リソン（現スタンフォード大学教授）と共同で進められ、その成果はオスロから刊行されました（*Manuscripts in The Schøyen Collection, Buddhist Manuscripts 3*, Hermes Publishing: Oslo, 2006 年）。この写本は従来知られている内容と異なり、その内容の変遷を確定したことにより、経典が漸次に形成されるという重層性を明らかにしています。このテーマこそ渡辺氏の博士論文『金剛般若の研究』（2009 年、山喜房佛書林から刊行）の中核になったものです。このように渡辺氏の研究の柱は、サンスクリット写本の研究を基盤に、チベット語訳や漢訳を比較した堅実な文献研究といえます。これらの業績は当時の日本では、サンスクリットの写本を扱うことがまれであり、特に般若経については全く未開拓であったことから、大いに注目を浴び、渡辺氏の般若経研究者としての地位を確立いたしました。

『般若心経』研究も渡辺氏の主要な研究分野といえます。1991 年に発表された「般若心経成立論序説」（『佛教学』31）は、現存最古の漢訳心経とされる羅什訳「大明呪経」が偽作であるというセンセーショナルな論文であり、『般若心経』の成立を拡大般若経の中から新たに位置付けました。それ以降、多くの論文を発表し、2009 年には『般若心経—テキスト・思想・文化』（大法輪閣）としてそれまでの論文を平易にまとめた著書を刊行しました。

ついで、2012 年に『絵解き般若心経—般若心経の文化的研究』（ノンブル社）を出版していますが、これは長年の岩手・青森の調査によってまとめられた絵心経（南部めくら心経）の研究であり、江戸時代に南部藩に広がった絵文字がどのように成立し、仏教信仰とともに広がっていったのかを明らかにした体系的な研究書です。この書は渡辺氏の研究の中でも異色ですが、仏教文化の中で心経の民俗信仰に光を当てた画期的な研究であるといえます。

さらに、2016 年に『般若心経註釈集成〈中国・日本編〉』（起心書房）、2018 年に『般若心経註釈集成〈中国・日本編〉』（起心書房）を大正大学の高橋尚夫教授との共編著にて刊行されました。これによって主な般若心経の注釈が広く知られるようになり、それらの翻訳を日本語で読めるようになった意義は大きいと評価されます。

以上、渡邊博士のこのような地道な文献研究のほんの一端をあげたにすぎませんが、余人をもっては代えがたいもので、つとに若い渡邊博士の中にこのように優れた資質を見出され、渡邊博士を抜擢してインドへ派遣された中村先生もお喜びのことと思います。審査委員会では、渡邊博士が今後とも文献研究を継続され、ご研究を完成されますように期待して、第 30 回の授賞者と決定した次第であります